

## いよいよ冬休み

8月26日(水)厳しい夏の暑さの中に始まった2学期でした。そして来週の24日(木)には終業式を迎えます。2学期は季節的にも、夏に始まり秋を過ぎ冬までと3つの季節にまたがる大変長い学期です。全校的な行事も運動会、芸術鑑賞教室、図書集会、音楽発表会と沢山ありました。また、各学年では秋の校外学習があり、学校の外に出て様々な体験学習をしました。教室での毎日の学習、友だちとの交流などとおし、心身共に大きく成長した2学期でした。

12月16日(水)に児童会行事「北小ウォークラリー」がありました。当日は曇り空で気温が上がらず寒い1日でしたが、こども達は寒さを吹き飛ばし元気一杯ゲームに取り組んでいました。この集会のねらいは、次のようなものです。

○たてわり班活動を通して、異学年児童との交流を深め、協力する気持ちを高める。

○全校児童が楽しく活動することで、仲間意識を高め、北小の一員であることを自覚する。

高学年児童のリーダーシップのもと、班全員でゲームに取り組めます。次のようなゲームが用意されました。①障害物リレー②絵しりとり③巨大オセロ④玉入れ⑤キーワードを探せ⑥宝さがし⑦福笑い⑧こおりオニ⑨ハンターごっこ⑩長なわ跳び

班員で力をあわせ楽しくゲームに取り組み、仲間意識が一段と高まりました。

巨大オセロ型「陣取りゲーム」



集団長なわ跳びの様子



## お礼

この1年間、保護者の皆様方には学校教育へのご協力ありがとうございました。敷島北小では職員がそれぞれの持ち味を生かし、力をあわせ教育活動に取り組み、豊かな教育を実現しています。校内では子どもたちの明るく元気な声がこだましています。心配しました新型インフルエンザも本校では、学級閉鎖の措置も最小限(1クラスで2日間だけ)に食い止めることが出来ました。これも保護者の方々が、お子さんの健康管理に意を注いで下さったおかげと感謝しております。良いお年をお迎え下さい。

来る年が、

みなさま方にとりまして

今年以上に、良い年となりますよう

心より祈念いたします

敷島北小学校 職員一同

## 講演会の話(その2)

学校だよりの28号の裏面で、11月20日(金)に敷島総合文化会館で講演会があり「良い話を聞き久しぶりに感動した」とお伝えしました。今回はその第2弾として、当日聴いたもうひとつの話を紹介します。(これもメモを元に再生したものですから実際の話とは多少違うところがあることをご承知下さい)

(講演会の話)今の社会は全てマニュアル化されています。確かにマニュアルは仕事を間違いなく合理的に行うには適しているかもしれませんが、でも、時々おかしなことに会います。これは全国にチェーン店を展開している有名ハンバーグ店での話です。このお店では買ったハンバーグをその場で食べたり、持ち帰ることも出来ます。ですから従業員はお客さんに、

「この場でお食べになりますか。それともお持ち帰りになりますか。」

と聞くのが習わしになっています。ある時、お客さんが1人で36個ものハンバーグを注文しました。すると店員は、

「この場でお食べになりますか、それともお持ちになりますか。」

と尋ねたそうです。講演会の講師の林さんは、次のように言いました。

- ・常識で考えれば1人で36個ものハンバーグを食べるなどとは考えないだろう。人はマニュアルばかりに頼ると、自分で考えることが出来なくなる。人が人関わることだからもう少し自分で考え、気の利いたことばが言えなかったか。

そして、次のようなアメリカで実際にあった話をしました。

10歳の少年トムは幼くして両親と分かれ、マリア伯母さんに育てられていました。可哀想なトムは白血病で入院していました。マリア伯母さんはトムの10歳の誕生日に何かプレゼントを、と思いました。そこで花屋さんにきれいな花を注文しました。

「甥のトムが白血病で入院しているの、きれいな花を届けて欲しいの。」

誕生日の日、病室に美しい花が届けられました。トムの表情が少し明るくなりました。その花束には伯母さんからのメッセージが添えられていました。

「トム、誕生日おめでとう。早く元気になってね。」

トムの表情がもう少し明るくなりました。その花束にはもうひとつ手紙が添えられていました。不思議に思ったトムはその手紙を開けました。その手紙を読んだトムの表情が今度は輝くほど明るくなりました。その手紙には次のようなメッセージが添えられていたのです。

「トム、私は花屋で働いているメアリーです。電話で花束の注文を受けたのは私なの。その電話で私はあなたが白血病で入院していることを知りました。実は私も6歳の頃、白血病で入院していたの。今、私は18歳。とっても元気です。トム、病気は絶対に治るわ。希望を捨てないでね。」

ここで林さんは次のように話しました。

- ・病気を治すのはお医者さんの仕事です。でもどんなによく効く薬も、本人の生きよう、良くなるよう、という気持ち呼び起こすことは出来ません。
- ・傷ついたトムの心を癒(いや)し、希望を呼び起こしたのはメアリーのちょっとした気遣いです。

以上のような話でした。実際には、この話のように上手い出来ないのが世の中です。好意が相手に正しく伝わるとは限りません。逆に恨みをかいたり、誤解が生ずることの方が多いかもかもしれません。ですが、相手に対するちょっとした優しさがこの世に潤いをもたらせます。この世を素晴らしいものにするためにも、マニュアルだけに頼らず、自分に出来る気遣いを相手に届けたいものです。(難しいことですが)